

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2016/8/1~2016/11/30) 資料 3-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Transfus Med Hemother. 43(2016)137-141	ブラジルにおいて、献血後にA型肝炎を発症したドナーからの輸血(赤血球、血小板)により、A型肝炎ウイルス(HAV)が伝播したとの報告。献血時のサンプルではHAV IgMとIgGは陰性であったが、追跡調査のサンプルで陽性であり、ドナーのHAV急性感染が確認された。輸血された2名のレシピエントはいずれもHAV陽性であり、ウイルスの系統学的分析により、輸血による感染が判明した。
2	B型肝炎	Clin Infect Dis. 62(2016)1412-1418	イタリアにおけるB型肝炎ワクチン定期接種導入後の急性B型肝炎の調査について。1993~2014年の期間にイタリアの急性ウイルス性肝炎監視システムに報告されたデータを分析した結果、急性B型肝炎患者11,311例のうち10,949例がワクチン接種を受けていなかった。
3	B型肝炎	第64回日本輸血・細胞治療学会総会 2016年4月28日~30日	国内の輸血用血液のスクリーニングの基準では、HBc抗体が陽性であってもHBs抗体が200mIU/mL以上あれば輸血用血液として供給される。ヒト肝臓置換マウス(PXBマウス)を用いた検証により、200mIU/mLのHBs抗体は、HBV感染を阻止することが確認された。また、Genotypeが異なるHBVでも感染の阻止が確認された。
4	C型肝炎	Transfusion. 56(2016)1883-1890	スクリーニング検査においてHCV抗体及びHCV RNAが陰性であった供血者2007例について、HCVコア抗体検査を行った結果、42例が陽性反応を示し、この42例の検体を濃縮したところ3例からHCV RNAが検出された。スクリーニング検査に合格した供血者におけるオカルトHCV感染が示唆されたとの報告。
5	C型肝炎	<a href="http://www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/wr/mm6528a2.htm?s_cid=mm6528a2_w/2019/07/22">http://www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/wr/mm6528a2.htm?s_cid=mm6528a2_w/2019/07/22</a>	米国において、2011年~2014年の間に妊娠可能年齢の女性におけるC型肝炎ウイルス(HCV)の検出率(抗体またはRNA陽性)および2歳以下の小児におけるHCV検査(抗体またはRNA陽性)の増加がみとめられた。同期間における出生証明書データのデータでは、HCVに感染している母親から生まれた乳児の割合は、全米で68%およびケンタッキー州で124%の増加を示した。
6	C型肝炎	第64回日本輸血・細胞治療学会総会2016年4月28日~30日 2	2012年~2014年の3年間に国内の医療機関から報告のあった輸血によるHCV感染疑い症例99例のうち保管検体等の検査結果が「陰性」でHCV感染と輸血との因果関係が極めて低いと評価された39例について調査した結果、手術等の侵襲的処置が26例、内視鏡、カテーテル処置がそれぞれ6例で実施されていた。
7	E型肝炎	Clin Infect Dis. 62(2016)1464	スペインにおいて、E型肝炎ウイルス(HEV)感染期の母乳からHEV RNAが検出された。授乳はHEVの感染経路となり得るとの報告。
8	E型肝炎	EMA Reflection paper on viral safety of plasma-derived medicinal products with respect to hepatitis E virus	EMAは血漿由来医薬品のE型肝炎ウイルス(HEV)の安全性に関するリフレクションペーパーを公表した。2015年1月から欧州薬局方の要件に追加された製造工程中のHEV RNA検査はHEV感染リスクを軽減することが期待されるが限界があるため、血漿由来医薬品における潜在的HEV感染については調査が継続されるとの内容。
9	E型肝炎	Hepatology. 64(2016)350-359	中国雲南省における調査で、E型肝炎感染牛は牛乳中にE型肝炎ウイルスを排出することがわかった。ウイルスで汚染された牛乳を与えられたアカゲザルはE型肝炎に感染した。このウイルスは62°Cで30分間、もしくは72°Cで30秒間加熱する低温殺菌では完全に不活化されず、100°Cで3秒間の加熱で完全に不活化された。
10	E型肝炎	Transfusion. 56(2016)722-728	オランダにおいて、2013年1月から2014年12月の間に59,474の献血についてスクリーニングした結果、41名のドナーから45のHEV RNA陽性献血(0.076%)が同定された。陽性献血率は、経時的に増加した。健康なドナーにおけるHEVのウイルス血症の平均持続期間は68日であると推定された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
11	HIV感染	ProMED-mail 20160603.4264066	インドにおいて、過去17か月間で病院での輸血によるHIV感染が、少なくとも2234例発生したことが公表された。
12	HIV感染	Transfusion. 56(2016)831-836	スペインにおいて、メチレンブルーによる病原体不活性化処理された新鮮凍結血漿を輸血された患者のHIV-1感染が確認された。この献血について、スクリーニング検査では44ミニプールNATによるHIV-1 RNA及び抗HIV抗体は陰性であったが、保管サンプルにおいて個別NATによりHIV-1 RNAが検出された。
13	インフルエンザ	ProMED-mail 20160515.4222769	米国におけるインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルスの報告。H1N2vのヒト感染症がミネソタ州で報告された。感染源は調査中である。
14	インフルエンザ	Influenza at the human-animal interface Summary and assessment, 9 May to 13 June 2016	インフルエンザの報告(2016年5月9日~6月13日) 米国ミネソタ州において、インフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)のヒト感染の新規検査確定例1例が報告され、本症例のウイルスは米国で循環しているブタのウイルスの近縁と判定された。
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20160703.4323386	米国におけるインフルエンザA型(H1N2)変異型(H1N2v)の報告。 Wisconsin州およびミネソタ州においてヒトの新規検査確定例2例が報告された。両症例とも発症以前にブタとの接触が確認されている。
16	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015- 2016 Influenza Season Week 25 ending June 25, 2016	米国におけるインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルスの報告。 Wisconsin州およびミネソタ州においてH1N2vのヒト感染例が各1例報告された。両症例ともにブタとの接触があったことが報告されている。
17	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015- 2016 Influenza season Week 37 ending September 17, 2016	米国 Wisconsin州およびミネソタ州において、インフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)のヒト感染症例が各1例報告された。発症する前の週にブタとの直接的な接触があったことが報告され、ヒト-ヒト伝播は特定されていない。
18	インフルエンザ	The Weekly Epidemiological Record. 91(2016)133-143	米国においてブタに接触後、インフルエンザA型(H1N1)変異型(H1N1v)に感染した患者が2015年10月に確認された。原因ウイルスは単離されていない。ゲノム配列は確認されており、HA遺伝子が古典的なブタインフルエンザウイルスのガンマ系統に属していることが確認された。
19	インフルエンザ	CDC MMWR. 65(2016) 1008-1014	米国におけるインフルエンザAウイルスの報告。2016年5月22日~9月10日、新規のインフルエンザAウイルスのヒトの感染症例20例が報告された(H1N2v感染2例、H3N2v感染18例)。H1N2vは、ミネソタ州(1例)、Wisconsin州(1例)で報告された。両患者とも、発症の前週にブタとの接触を報告し、コミュニティ感染の継続は検出されなかった。H3N2v感染の18例は、ミシガン州(12例)およびオハイオ州(6例)で報告され、2016年の米国におけるH3N2vのヒトの感染の最初の報告である。H3N2v感染の全症例18例は、発症の前週に品評会でブタへの曝露が報告された。
20	インフルエンザ	ProMED-mail 20160807.4399461	米国におけるインフルエンザA型(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。ミシガン州におけるH3N2v確定例2例について、品評会へのブタ出品者が含まれていることが報告された。この品評会に出品されたブタ1匹についてH3N2v感染に陽性であったことが確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
21	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015-2016 Influenza Season Week 31 ending August 6, 2016	米国におけるインフルエンザA (H3N2) 変異型 (H3N2v) ウイルスの報告。ミシガン州およびオハイオ州においてH3N2vのヒト感染例がそれぞれの州で各2例報告された。4例全例において、発症の前週に品評会でブタとの接触があった。各州におけるそれぞれのブタへの曝露事象が感染に関連しており、異なる州の症例の間に関連性は認められない。品評会の複数のブタがH3N2感染に対して陽性と判定された。
22	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/news/variant-virus-pig-exposure.htm">http://www.cdc.gov/flu/news/variant-virus-pig-exposure.htm</a>	米国におけるインフルエンザA (H3N2) 変異型 (H3N2v) ウイルスの報告。ミシガン州およびオハイオ州においてH3N2vのヒト感染例がそれぞれの州で各2例報告された。4例全例において、発症の前週に品評会でブタとの接触があった。各州におけるそれぞれのブタへの曝露事象が感染に関連しており、異なる州の症例の間に関連性は認められない。品評会の複数のブタがH3N2感染に対して陽性と判定された。
23	インフルエンザ	ProMED-mail 20160817.4420280	米国におけるインフルエンザA (H3N2) 変異型 (H3N2v) ウイルスの報告。ミシガン州およびオハイオ州においてH3N2vのヒト感染例がそれぞれの州で各2例報告された。4例全例において、発症の前週に品評会でブタとの接触があった。各州におけるそれぞれのブタへの曝露事象が感染に関連しており、異なる州の症例の間に関連性は認められない。品評会の複数のブタがH3N2感染に対して陽性と判定された。
24	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015-2016 Influenza Season Week 33 ending August 20, 2016	米国におけるインフルエンザA (H3N2) 変異型 (H3N2v) ウイルスの報告。ミシガン州において4例、オハイオ州において3例のH3N2vのヒト感染例が報告された。ブタへの曝露が確認されており、ヒト-ヒト感染は特定されていない。
25	インフルエンザ	<a href="http://www.michigan.gov/mdhhs/0,5885,7-339--391701--,00.html">http://www.michigan.gov/mdhhs/0,5885,7-339--391701--,00.html</a>	米国におけるインフルエンザA型(H3N2)変異型 (H3N2v) の報告。ミシガン州においてH3N2vのヒト症例が8例報告された。全症例が2016年7月～8月に、品評会においてブタに曝露していたことが確認されている。
26	インフルエンザ	ProMED-mail 20160821.4431010	米国におけるインフルエンザA型(H3N2)変異型 (H3N2v) の報告。ミシガン州においてH3N2vのヒト症例が8例報告された。全症例が2016年7月～8月に、品評会においてブタに曝露していたことが確認されている。
27	インフルエンザ	ProMED-mail 20160818.4423683	米国ミシガン州においてブタのインフルエンザA (H3N2) 変異型 (H3N2v) ウイルス感染が報告された。接触者の発病は確認されていない。
28	インフルエンザ	<a href="http://who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_Summary_IRA_HA_interface_25_02_2016.pdf">http://who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_Summary_IRA_HA_interface_25_02_2016.pdf</a>	インフルエンザの報告(2016年1月21日～2月25日) ・トリインフルエンザA (H7N9) ウイルス: 中国のZhejiangなどの6カ所から新たな検査確定例28例が報告され、25例において生きた家禽または家禽市場への曝露が確認された。さらに、香港において、追加の検査確定例1例(60歳男性)が報告された。この症例は発症前に中国の家禽市場を訪れていた。・インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルス: 中国においてH1N1vのヒト感染例3例が報告された。1例はブタに曝露していたが、2例についてはブタへの曝露については不明である。
29	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/swineflu/variant-cases-us.htm">http://www.cdc.gov/flu/swineflu/variant-cases-us.htm</a>	米国におけるインフルエンザウイルス (H3N2v, H1N1v, H1N2v) の報告。2005年12月以降、計385例の変異型インフルエンザウイルス感染が検出された。大多数の症例が発症前の直接または間接的なブタへの曝露を報告している。感染者との濃厚接触による限定的な感染が認められたが、継続したヒト-ヒト感染は記録されていない。
30	インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/201602_zoonotic_vaccinevirusupdate.pdf?ua=1">http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/201602_zoonotic_vaccinevirusupdate.pdf?ua=1</a>	2015年9月22日～2016年2月22日のインフルエンザA (H5)、インフルエンザA (H7N9)、インフルエンザA (H9N2)、インフルエンザA (H1N1v)、インフルエンザA (H3N2v) などの活動性について。H1N1v感染者が米国において1例、中国において2例、H3N2v感染者が米国において1例確認されている。
31	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 22(2016)1517-1519	日本国内のウシ集団からインフルエンザD型ウイルス(IDV)が検出された。ウシの呼吸器疾患にIDVが関与している可能性が示唆されたとの報告。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
32	インフルエンザ	J Clin Virol. 81(2016)31-33	2011年にブタから初めて検出されたインフルエンザD型は、ウシを主な宿主としていると考えられている。血球凝集阻害(HI)法とマイクロ中和(MN)法を用いて職業上ウシに曝露しているヒト集団の血清を検査した結果、それぞれ91%、97%というIDV血清陽性率が認められた。
33	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/swineflu/interim-guidance-variant-flu.htm">http://www.cdc.gov/flu/swineflu/interim-guidance-variant-flu.htm</a>	変異型インフルエンザウイルスのヒト感染に関する臨床医のための暫定ガイドダンス。米国においてH1N1v、H3N2vおよびH1N2vウイルスのヒト感染が検出されている。感染したブタへの曝露後に発病した複数のヒト症例、また、限定的なヒト-ヒト感染の稀な症例が報告されている。
34	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP20160509cumulativenumberH5N1cases.pdf">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP20160509cumulativenumberH5N1cases.pdf</a>	WHOに報告されたトリインフルエンザA(H5N1)のヒト確定症例の報告。2015年、中国においては症例6例(死亡1例)が報告され、合計症例数は145例(死亡42例)である。
35	鳥インフルエンザ	The Weekly Epidemiological Record(WER)2016年3月11日号Vol.91, No.10	2015年9月22日～2016年2月22日、中国においてトリインフルエンザA(H7N9)感染の追加のヒト症例44例が報告された。2013年2月以降、計721例(死亡286例)が報告された。
36	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_04_04_2016.pdf?ua=1">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_04_04_2016.pdf?ua=1</a>	インフルエンザの報告(2016年2月25日～4月4日)・トリインフルエンザA(H7N9)ウイルス: 中国のZhejiangなどの6カ所から新たな検査確定例28例が報告され、25例において生きた家禽または家禽市場への曝露が確認された。さらに、香港において、追加の検査確定例1例(81歳女性)が報告された。この症例は発症前に中国の家禽市場を訪れていた。
37	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_05_09_2016.pdf?ua=1">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_05_09_2016.pdf?ua=1</a>	インフルエンザの報告(2016年4月5日～5月9日) 中国において、ヒトのトリインフルエンザA(H7N9)ウイルス感染の死亡5例を含む新規検査確定例17例が報告された。Zhejiang Province出身の85歳の女性1例が含まれた。女性は確定例1例と同じ病院の病棟に入院しており、生きた家禽または生きた家禽の市場への曝露はなかった。ヒトからヒトへの伝播の可能性が高い。また、香港において検査確定例1例が報告された。
38	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_06_13_2016.pdf">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_06_13_2016.pdf</a>	インフルエンザの報告(2016年5月9日～6月13日) 中国において、ヒトのトリインフルエンザA(H7N9)ウイルス感染の死亡4例およびクラスター1件を含む新規検査確定例11例が報告された。10例が生きた家禽または生きた家禽の市場に曝露しており、このうち1例は確定例1例とも接触していた。その他1例は市場で豚肉を売っていた。
39	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_07_19_2016.pdf?ua=1">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_07_19_2016.pdf?ua=1</a>	インフルエンザの報告(2016年6月13日～7月19日) 中国において、ヒトのトリインフルエンザA(H7N9)ウイルス感染の死亡5例を含む新規検査確定例12例が報告された。10例が生きた家禽または生きた家禽の市場に曝露していた。
40	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/07-august-2016-ah7n9-china/en/">http://www.who.int/csr/don/07-august-2016-ah7n9-china/en/</a>	2016年8月11日、中国のNational Health and Family Planning Commission (NHFP)は、トリインフルエンザA(H7N9)ウイルスのヒト感染症の死亡1例を含む追加の検査確定例5例をWHOに報告した。症例5例中2例は生きた家禽への曝露が報告された。残りの3例は家禽への曝露歴の報告はない。症例は、FujianおよびHebei province、およびBeijing municipalityから報告された。HebeiおよびBeijingから報告された症例は家族であることが報告された。調査が継続中であり、現段階ではヒト-ヒト感染は除外されていないが、追加の感染は報告されていない。
41	ウエストナイルウイルス感染	HPS Weekly Report Vol.50, No. 2016/35 2016年8月30日号	2016年8月26日、European Centre for Disease Prevention and Control (ECDC)は、過去2週間にEUでウエストナイルウイルス症例43例が報告されたことを公表した。2015年の伝播シーズン全体の合計54例と比較し、明白な増加が示された。EU加盟国において、新規症例は前週に32例報告され、キプロスにおいては、ウエストナイルウイルス症例が初めて報告された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
42	日本脳炎B型	ProMED-mail 20160618.4295919	台湾における日本脳炎の報告。2016年6月17日、Tainanで今年1例目の日本脳炎の地元感染例が確認された。CDCによると、農業従事者(64歳、男性)が6月9日に高熱を呈し、6月12日、嘔吐し、錯乱を訴えた後に入院した。
43	エボラ出血熱	Lancet Glob Health. 4(2016)e736-e743	リベリアにおけるエボラウイルス疾患生存者男性466例を対象とした精液のRNA検査の結果、リアルタイムRT-PCR結果が入手可能であった429例のうち24例について、回復12ヶ月以上経過した後に、精液からウイルスRNAが検出され、最長は565日であった。また、40歳以上の陽性率は有意に高かった。
44	エボラ出血熱	WHO GAR Pandemic and Epidemic Diseases 2016年1月20日	2016年1月17日までに、世界でエボラウイルス疾患(EVD)症例計28638例(死亡11316例)が報告されている。シエラレオネでは、2015年11月17日に終息が宣言された後の90日間の高度監視期間に入って68日目の2016年1月14日に、22歳の死亡女性から死後に採取されたスワブがエボラウイルスに対して陽性と判定され、EVDの新規確定例1例が報告された。リベリアにおける直近の症例のクラスターに関連したヒト-ヒト感染は、2016年1月14日に終息が宣言された。ギニアは2015年12月29日にエボラ伝播フリーと宣言され、2016年3月27日に終了予定の90日間の高度監視期間に入っている。
45	エボラ出血熱	WHO GAR Pandemic and Epidemic Diseases 2016年3月16日	2016年3月13日までに、世界でエボラウイルス疾患(EVD)症例計28639例(死亡11316例)が報告されている。2016年1月14日に報告されたEVDの最新のクラスターに関連するヒトからヒトへの伝播は、クラスターにおける最新の2例目の症例が2週連続で血液サンプル陰性(RT-PCR法)の結果が得られ、退院した42日後の3月17日に終息を宣言されるとの報告。
46	エボラ出血熱	WHO GAR Pandemic and Epidemic Diseases 2016年3月30日	2016年3月27日までに、世界でエボラウイルス疾患(EVD)症例計28646例(死亡11323例)が報告されている。2016年3月17日、EVDの確定例2例および可能性例3例を伴うクラスターが、ギニア南東部のN'Zerekore prefectureから報告された。追加の確定例3例が、3月21日、3月26日、3月28日に報告された。全本クラスターに関連する接触者1033例が特定され、そのうちの171例が現時点における高リスクのヒトとみなされている。
47	エボラ出血熱	<a href="http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/206924/1/ebolasitrep_26May2016_eng.pdf?ua=1">http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/206924/1/ebolasitrep_26May2016_eng.pdf?ua=1</a>	西アフリカのエボラに関連する国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)は2016年3月29日に解除された。ギニア、リベリア、シエラレオネにおいて死亡11310例を伴う確定例、可能性例、疑い例の計28616例が報告されている。最新クラスターにおいて、2016年3月17日~4月6日、エボラウイルス疾患(EVD)の確定例7例および可能性例3例が、ギニア南東部のN'Zerekore prefectureとMacenta prefectureにおいて報告された。さらに、リベリア、Monroviaへの渡航により、Macentaの症例の妻1例および小児2例が、4月1日~5日にエボラ症例として確認された。
48	ハンタウイルス性肺感染	ProMED-mail 20160213.4018784	米国におけるハンタウイルスの報告。オレゴン州、Umatilla County西部に在住のヒト1例が、ハンタウイルス肺症候群(HPS)と診断された。症例はネズミの糞への直接的な接触により疾患に感染し入院したと報告されている。
49	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis. 22(2016)1221-1228	プエルトリコの供血者における2014年のチクングニヤウイルス(CHIKV)流行期間の個別NAT陽性率は10月が最も高く2.1%であった。個別NAT陽性の14.3%はRNAコピー数 10の4乗~1.3×10の8乗/mLと高値を示し、血清学的検査は陰性であったことから、感染初期のウイルス血症ピーク時(約5日間)の供血者からの採血は輸血感染のリスクがある。なお流行後のCHIKV血清陽性率は約25%であった。
50	黄熱	WHO 2016年5月20日	2015年12月末にアンゴラで黄熱のアウトブレイクが検出され、その後、黄熱症例の急速な増加がみとめられている。2016年5月19日時点、黄熱の疑い例が総計2420例および死亡298例がアンゴラで報告されている。そのうち736例は検査確定例であった。3カ国(コンゴ民主共和国、ケニア、中国)において、アンゴラから輸出された黄熱の確定例が報告された。これは、ワクチン接種を受けていない渡航者を介した国際的な拡散リスクがあることを強く示している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
51	デング熱	Transfusion. 56(2016)1129-1137	白血球除去処理後の血小板製剤及び赤血球製剤にデングウイルス(DENV)を添加し、有効期間におけるDENVの生存能力を検査した結果、血小板製剤(7日間、20~24℃)及び赤血球製剤(42日間、1~6℃)において、DENVは持続した。
52	灰白髄炎	<a href="http://www.who.int/wer/2016/wer9126-27.pdf?ua=1">http://www.who.int/wer/2016/wer9126-27.pdf?ua=1</a>	急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランスの実績およびポリオの発生状況について(2016年6月14日時点)。2016年の世界におけるAFP症例は40690例であった。野生型ポリオウイルス1型(WPV1)症例17例が東地中海地域(アフガニスタン6例、パキスタン11例)において、循環型ワクチン由来ポリオウイルス2型(cVDPV2)症例3例が西太平洋地域において発生した。
53	灰白髄炎	CDC/MMWR. 65(2016)763-769	2015年1月から2016年5月に、ミャンマー、ギニア、ラオス、マダガスカル、およびウクライナにおいて循環型ワクチン由来ポリオウイルス(cVDPV)の新規アウトブレイクが特定され、ナイジェリアおよびパキスタンにおける2型cVDPV(cVDPV2)の循環は顕著に低下した。10カ国(イラン、West BankおよびGazaなど)において免疫不全関連VDPVs(iVDPVs)排出が新たに21例確認された。
54	サイトメガロウイルス感染	Transfusion. 56(2016)1305-1310	ヒトサイトメガロウイルス(CMV)に感染した極低出生体重児の感染経路を特定するためにCMV-DNA可変領域の塩基配列分析を行ったところ、母乳による伝播が確認され、輸血した照射白血球除去赤血球製剤による伝播は否定された。効率的な経母乳感染予防対策がより重要かもしれないと述べられている。
55	サイトメガロウイルス感染	Transfusion. 56(2016)1921-1924	現行の白血球除去によるサイトメガロウイルス輸血感染のリスクは0.2%程度と試算され、1製剤あたりの白血球数は $5 \times 10^6$ 乗個以下である場合、輸血による感染の可能性は極めて低いとの報告。
56	ジカウイルス感染	Euro Surveill. 2016;21(32):pii=30314	ジカウイルス(ZIKV)感染症の発症後91日目の尿、唾液及び精液、並びに188日目の精液からZIKV RNAが検出された。
57	ジカウイルス感染	MMWR. 65(2016)627-628	ジカウイルス(ZIKV)流行地域であるプエルトリコにおいて、2016年4月3日から6月11日までの間に供血された血液12,777検体についてZIKVスクリーニング検査を行った結果、68例(0.5%)がウイルス血症と推定された。陽性率が最も高かった週は6月5~11日で11%であった。
58	ジカウイルス感染	MMWR. 65(2016)716-717	ジカウイルス(ZIKV)流行地域から米国へ帰国した女性が男性と性交渉後、両者からZIKVが検出された。本症例は女性から男性へのZIKVの性感染した初めての報告と考えられる。
59	ジカウイルス感染	MMWR. 65(2016)915-916	米国において、ジカウイルス(ZIKV)流行地域から帰国後の感染症状のない男性との性交渉後に、女性がZIKVに感染したとの報告。女性はZIKV流行地域への渡航歴はなく、性交渉による感染が疑われた。
60	ジカウイルス感染	N Engl J Med. 374(2016)2195-2198	フランス在住の女性(患者1)が、ジカウイルス(ZIKV)に感染した男性(患者2)との性交渉後、ZIKVに感染した。患者1の尿および唾液からZIKVが検出された。患者2はブラジル滞在歴があった。患者1の唾液、患者2の精液から抽出されたZIKVの全ゲノムの配列決定結果は系統発生分析にてクラスターを形成したことから、患者2から患者1へのZIKV伝播が示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
61	ジカウイルス感染	ProMED-mail 20160701.4321150	ブラジルにおいて、ジカ急性期症状の患者の尿および唾液から感染性ジカウイルス(ZIKV)が分離されたとの報告。
62	ジカウイルス感染	N Engl J Med. 375(2016)1101-1103	ブラジルにおいて照射血小板輸血後の患者でジカウイルス(ZIKV)感染が認められたとの報告。献血後に急性ZIKV感染が確認されたドナーの血小板を輸血された2例の患者において、PCRにてZIKV陽性が確認された。ドナーの献血前後の血液サンプルではZIKVは陰性であったが、14日後の血液と尿のサンプルでは陽性が確認された。
63	ジカウイルス感染	Transfusion. 56(2016)1907-1914	フランス領ポリネシアでのジカウイルス(ZIKV)流行時に、ウイルス血症の罹患率は最高で2.8%が記録され、高いウイルス量(最高で $8.1 \times 10^6$ copies/mL)が検出された。
64	ジカウイルス感染	PHE Health Protection Report Vol.9 No.44 2015年12月11日	2014年に太平洋にジカウイルス(ZIKV)が出現した後、2015年にはブラジルとコロンビアで大規模なアウトブレイクが報告され、中南米のその他数カ国へ広がる結果となっている。現時点でブラジル、コロンビア、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、パナマ、パラグアイ、スリナム、ベネズエラにおいて地元感染例が報告されている。さらに、2015年にはカーボベルデでも症例が報告された。2015年11月、ブラジルのMinistry of Health (MoH)は、小頭症の新生児の数が20倍に増加したことを報告した。12月5日時点、ブラジルの14の州において死亡19例を含む1761例の小頭症症例が報告されている。MoHは小頭症の増加と継続中のZIKVのアウトブレイクとの間に関連性がある可能性を示唆している。
65	ジカウイルス感染	WHO GAR Pandemic and Epidemic Diseases 2016年2月19日	2007年1月1日～2016年2月17日、ジカウイルス(ZIKV)感染が48の国と地域で記録されている。これには2015年～2016年に地元感染が報告された36カ国、ウイルス循環の間接的なエビデンスがある6カ国、アウトブレイクの終息が報告された5カ国、地元感染例が存在するがベクター媒介感染はない1カ国が含まれる。これら48の国と地域のうち、直近の土着感染が報告されたのはArubaとBonaireである。
66	ジカウイルス感染	WHO GAR Pandemic and Epidemic Diseases 2016年3月24日	2007年1月1日～2016年3月23日、ジカウイルス(ZIKV)感染が61の国と地域で記録されている。これらのうち4つの国と地域が報告したZIKV感染のアウトブレイクは現在終息している。5カ国(アルゼンチン、フランス、イタリア、ニュージーランド、米国)からは媒介蚊が存在しない状況で地元感染が報告されており、性感染の可能性はある。
67	ジカウイルス感染	WHO GAR Pandemic and Epidemic Diseases 2016年3月31日	2007年1月1日～2016年3月30日、ジカウイルス(ZIKV)感染が61の国と地域で記録されている。これらのうち4つの国と地域(Cook Islands, フランス領Polynesia, チリのISLA DE PASCUA, New Caledonia)が報告したZIKV感染のアウトブレイクは現在終息している。6カ国(アルゼンチン、チリ、フランス、イタリア、ニュージーランド、米国)からは媒介蚊が存在しない状況で地元感染が報告されており、性感染の可能性はある。
68	ジカウイルス感染	<a href="http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/207281/1/zikasitrep_26May2016_eng.pdf?ua=1">http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/207281/1/zikasitrep_26May2016_eng.pdf?ua=1</a>	2016年5月25日時点で、60の国と地域がジカウイルス(ZIKV)の蚊媒介性伝播の継続を報告している。このうち、46カ国が過去に循環のエビデンスが無く、2015年以降にZIKVの最初のアウトブレイクを経験し、蚊による感染が継続している。
69	ジカウイルス感染	Euro Surveill. 2016;21(32):pii=30315	フランス本土で2016年1月1日から7月15日までの期間に625例のジカウイルス(ZIKV)感染者が報告された。617例(99%)はZIKV流行地への渡航により、残る8例(1%)は感染した渡航者との性交渉により感染しており、現在まで欧州におけるZIKVのベクター伝播は報告されていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
70	ジカウイルス感染	<a href="http://www.cdc.gov/media/releases/2016/p0729-florida-zika-cases.html">http://www.cdc.gov/media/releases/2016/p0729-florida-zika-cases.html</a> /2016/07/29	米国フロリダ州においてヒト4例のジカウイルス(ZIKV)感染が報告された。これらの症例は米国本土で確認された初めての地元での蚊媒介性ZIKV伝播と考えられている。2016年7月27日時点、米国本土およびハワイにおけるジカの症例1658例がCDCに報告されている。これらの症例には性感染によると考えられる15例、および研究所での曝露による1例が含まれる。なお、この総数には本報告の地元伝播の可能性の高いフロリダの4例は含まれていない。
71	ジカウイルス感染	<a href="http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/ucm513583.htm">http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/ucm513583.htm</a> /2016/07/28	米国フロリダ州におけるジカウイルス(ZIKV)の非渡航関連症例について、米国本土での蚊を媒介したZIKV地域内感染の最初の症例と考えられている。血液製剤の安全性を確保するための措置として、FDAはマイアミ・デイド郡およびプロワード郡内の採血を行う全施設に対し、採血した個々の血液にZIKV RNAに対するスクリーニング検査を実施できるまで、または病原体不活化技術の使用を実施できるまで、採血を中止するよう要求している。
72	ジカウイルス感染	<a href="http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM518213.pdf">http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM518213.pdf</a>	FDAは、ジカウイルス(ZIKV)に対するさらなる安全対策として、業界向けガイダンス「血液および血液成分によるジカウイルス伝播のリスクを削減するための勧告の改訂」を発行した。本ガイダンスは米国由来の全血及び輸血用血液成分にZIKVに対する個別NATの導入を行い、陽性供血者の場合は120日前まで遡り血液製剤の隔離と回収を行うこと、受血者をモニタリングすると共にZIKV感染の可能性を情報提供するように求めた勧告で、血漿分画製剤用の原料血漿は対象外としている。
73	ジカウイルス感染	<a href="http://www.ema.europa.eu/ema/index.jsp?curl=pages/news_and_events/news/2016/09/news_detail_002606.jsp&amp;mid=WC0b01ac058004d5c1/2016/09/21">http://www.ema.europa.eu/ema/index.jsp?curl=pages/news_and_events/news/2016/09/news_detail_002606.jsp&amp;mid=WC0b01ac058004d5c1/2016/09/21</a>	EMAおよびEU加盟国の規制当局は、血漿由来および尿由来医薬品を使用した患者に、ジカウイルス(ZIKV)による感染リスクの増加がないことを確認した。血漿分画製剤に使用される製造プロセス(ウイルス不活化のための有機溶媒/界面活性剤法、液状加熱処理による不活化、ウイルス除去膜ろ過など)により、エンベロープウイルスに対する不活化/除去工程の効果は、十分に安全性を担保するものであると結論付けた。そのため、検査または特定の血漿ドナーの除外などの追加の安全対策は必要ないとした。
74	パルボウイルス感染	Arch Virol.161(2016)1033-1037	ハンガリーにおいて飼育ブタから新規パルボウイルス(strain swine/Zsana3/2013/HUN.KT965075)が検出され、新規のパルボウイルスの流行が示唆された。
75	パラポックスウイルス感染	Emerg Infect dis. 22(2016)1242-1245	フィンランドにおけるポックスウイルスの報告。全身性肉芽腫性炎症と重症増殖性皮膚炎を呈したウマの皮膚病変サンプルからポックスウイルスDNAが検出された。このウイルスのシーケンスはパラポックスウイルスのグループに属し、米国でウマと接触後のヒトから検出された新規のポックスウイルスと類似していた。
76	サル痘	Emerg Infect Dis. 22(2016)1014-1021	コンゴ民主共和国におけるサル痘の報告。サル痘のヒト症例数は2013年後半に例年の6倍を超え、家族内発症率(サル痘ウイルス感染者と同居し、感染症状を発症した者の割合)は、これまで報告された3~11%から50%に増加した。
77	中東呼吸器症候群	J Infect Dis. 214(2016)712-721	サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS-CoV)の報告。2015年1月1日~6月30日に報告されたMERS-CoVヒト症例の呼吸器サンプルにおいて、新規組み換えMERS-CoV(MERS-CoV(MC-2015))が複数発見され、優勢であることが報告された。
78	RSウイルス感染	Vet Microbiol. 181(2016)289-293	ウシ以外の家畜への感染の可能性についてほとんど知られていないHoBi様ウイルスについて、感染した仔ウシを介し、ヤギ、ブタ、ヒツジに感染する可能性があるとの報告。仔ウシ、ヤギ、ブタ、ヒツジに対し、HoBi様ウイルスを直接接種、あるいはHoBi様ウイルスに持続感染した仔ウシに接触させることにより、HoBi様ウイルスに曝露した結果、セロコンバージョンが認められた。



ID	感染症 (PT)	出典	概要
79	アルボウイルス感染	EcoHealth. (2015):347-353	2011年初めに、オーストラリアは壊滅的な降雨と洪水を経験したが、この期間後のロスリバーウイルス(RRV)とバルマフォレストウイルス(BFV)の輸血の感染リスクは、RRVは2,500-58,000例に1例、BFVは2,000-28,000例に1例と推定された。気候変動は、血液によるアルボウイルス感染リスクを増大させる可能性があるとの報告。
80	ラッサ熱	WHO GAR Disease Outbreak News 2016年2月19日	ベナンにおけるラッサ熱のアウトブレイクの報告。本アウトブレイクは当初、Borgou department、Tchaourou districtの医療従事者のクラスター内における原因不明の発熱の報告を受けて、2016年1月21日に検出された。1月3日、これらの医療従事者は出血熱に罹患した患者1例を治療していた。1月21日～2月16日、症例71例(確定例6例、可能性例10例、疑い例55例)が報告された。
81	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 56(2016)712-721	vCJDおよびsCJD感染のリスザルから採取した全血を輸血したリスザルにおいて、7年間の観察期間内にプリオン病の臨床症状は観察されず、免疫組織化学的および生化学的検査において、中枢神経系またはリンパ組織にPrP(TSE)は認められなかった。同様に、vCJDおよびsCJD患者のバフィーコートまたは血漿を脳内接種および静脈内接種されたリスザルにおける発症も確認されなかった。しかし、ヒトゲルストマン・シュトロイスラー・シャインカー病を発症させたチンパンジーからの白血球の脳内接種を受けたサルでは、感染が認められた。
82	異型クロイツフェルト・ヤコブ病、クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang. 110(2016)310-316	現在進行中の英国における輸血によるvCJD伝播の新規症例調査の2015年3月31日までの結果によると、18名のvCJD献血者の血液が医療機関で使用され、現在までに3症例のvCJDが発生したが、2007年以降は輸血に関連したvCJDの新規症例は報告されていない。また、29名の孤発性CJD(sCJD)献血者から211名への輸血が確認されたが、受血者においてCJD症例が疑われる症例はなく、sCJDの輸血伝播のエビデンスはないことが示された。
83	プリオン因子検査陽性	Sci Rep. 2016 Mar 7;6:22753. doi: 10.1038/srep22753.	カナダで確認されたH型非定型プリオンをマウス脳内に接種したところ、運動失調などが認められ感染が確認された。感染が成立したマウスの脳を別のマウスに脳内接種することを4代続けたところ、マウス脳内のプリオンの特徴が定型や非定型と異なることが確認された。H型非定型プリオンが感染を繰り返すことで新たなBSEプリオンに変異する可能性があることが示唆されたとの報告。
84	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20160708.4333061	香港における豚レンサ球菌感染の報告。痰、めまい、耳鳴り、難聴を伴う頭痛と咳で入院した患者の血液及び脳脊髄液から豚レンサ球菌が検出された。患者は生鮮市場で食肉処理業者として働いており、発症の2、3日前に指に擦過傷を負っていた。
85	炭疽	ProMED-mail 20160413.4156862	インドにおける炭疽の報告。インドのOdisha、Koraput district、Boipariguda blockのDangadhar村において、2日間で1世帯においてヒト2例が炭疽により死亡した。死亡したのは45歳の女性および12歳の娘と特定されている。同村で炭疽に感染した残りのヒト4例は重体である。インドのOdisha、Koraput district、Boipariguda地域において、炭疽により少なくともヒト4例が死亡し、重体の5例を含む残りのヒト11例が感染している。村民らは死亡したヤギとブタの肉を摂取した後、感染したことが報告されている。
86	炭疽	ProMED-mail 20160419.4170484	カナダにおけるウシの炭疽の報告。Alberta北部において、肉用牛における炭疽症例1例が確認された。
87	炭疽	ProMED-mail 20160510.4212869	米国テキサス州のウシ1例において炭疽が確認された。Texas Animal Health Commissionは、家畜の所有者にワクチン接種を奨励している。
88	ウシ結核	ProMED-mail 20160502.4197585	米国におけるウシ結核の報告。Indiana南東部のウシの群れにおいてウシ結核(Mycobacterium bovis)の症例1例が確認された。このウシは食肉処理施設における定期的な検査を通じて特定された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
89	ウシ結核	ProMED-mail 20160502.4197692	ニュージーランドにおけるウシ結核の報告。2015年のウシ結核のアウトブレイク後、Dunedin近隣のMt Cargill地域においてferret surveyが行われた。ウシおよびシカの4つの群れにおいて結核の感染が特定された。ポッサム6例およびフェレット1例において結核が特定されたとして、地元の野生動物における感染の拡大を究明するため、追加のサーベイランスが必要となったことが報告された。
90	ウシ結核	ProMED-mail 20160519.4233252	米国におけるウシ結核の報告。ミシガン州において、中規模のウシの群がウシ結核に対して陽性と判定された。本件は、ミシガン州において65件目のウシ結核が報告されたウシの群であるとの報告。
91	大腸菌感染	ProMED-mail 20160528.4251552	米国において、コリスチン耐性遺伝子mcr-1を有する大腸菌がヒトの尿およびブタの小腸から検出された。米国における初めての報告である。患者は過去5ヶ月間米国外へ渡航しておらず、米国外で感染した可能性は低いと考えられた。
92	大腸菌感染	ProMED-mail 20160616.4290293	米国のブタにおいてコリスチン耐性細菌が検出されたとの報告。
93	大腸菌感染	ProMED-mail 20160709.4335297	ベルギーの研究者チームは、コリスチン耐性遺伝子mcr-1を含まないウシ及びブタ由来コリスチン耐性大腸菌92株から無作為に抽出した10株中3株において、mcr-1と異なるmcr-2を発見した。
94	大腸菌感染	ProMED-mail 20160725.4366733	米国ネブラスカ州においてウシにおける腸管出血性大腸菌O165:H25感染に関連する出血性大腸炎が報告された。
95	ヘリコバクター感染	Vector Borne Zoonotic Dis. 16(2016)650-653	エジプトにおいて、外見上健康なヒツジ76頭、ヤギ33頭、ウシ21頭、バッファロー19頭、およびこれらと密接に接触する動物管理者10例から便サンプルを採取し、ヘリコバクターに関して検査した結果、ヒツジとヒトからHelicobacter canisが検出され、ヒツジ-ヒト間の人畜共通感染症の伝染が認められた。
96	肺ペスト	The Weekly Epidemiological Record(WER) 2016年2月26日号Vol.91, No.8	全世界におけるペストの報告。2010年1月1日～2015年12月31日、ヒトにおけるペスト症例3248例が報告され、死亡584例が報告された。
97	サルモネラ症	ProMED-mail 20160910.4478868	米国におけるサルモネラ菌感染に関する報告。National Antimicrobial Resistance Monitoring System for Enteric Bacteria(NARMS)の2014年ヒト分離株報告によると、一般的なサルモネラ菌の血清型において、40%を超える多剤耐性が認められた。2011年以降、耐性は2011年の18%から2014年の43%へ2倍以上となっており、動物への曝露や豚肉または牛肉の摂取に関連付けられていることが報告された。
98	細菌感染	<a href="http://www.cdc.gov/salmonella/live-populaty-05-16/index.html">http://www.cdc.gov/salmonella/live-populaty-05-16/index.html</a>	2016年1月から6月の間に、米国にて生きた家禽を介して、8件のヒトサルモネラ菌感染アウトブレイクが発生し、45州で611例が感染、1例が死亡した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
99	細菌感染	Infect Genet Evol. 41(2016)174-176	ウシにおいてWohlfahrtiimonas chitinclasticaが検出されたとの報告。化膿を伴う皮膚腫脹、疼痛、接触に対する過敏性を発現したウシの病変からこの細菌が分離された。Wohlfahrtiimonas chitinclasticaは2008年にハエの幼虫から検出されたグラム陰性細菌で、菌血症や炎症性疾患のヒト、野生動物から検出されている人畜共通感染細菌であり、ウシからの分離は初めてである。
100	梅毒	感染症発生動向調査 における異性間性的接 触による梅毒方億の増 加 2015年第43週	日本における梅毒の報告。2014年12月29日から2015年10月25日において、総報告数は2037例で、前年同時期の1.5倍であった。女性の増加が顕著であり、女性は20～24歳が30.8%と全体に占める割合が高かった。男性間性的接触による感染の報告が増えとどまっている一方、異性間性的接触による感染の報告が増加し続けている。
101	アメリカ・トリパノ ソーマ症	PLoS Negl Trop Dis. 10(2216)e0004656	Trypanosoma cruziの感染経路に関する報告。過去10年間に報告された959例の急性シャーガス病症例のうち638例(67%)が経口感染によるもので、先天性感染例は258例、ベクター媒介による皮膚感染例は23例であった。経口感染者の80～100%が高熱などの急性期症状を呈するとの報告。
102	マラリア	ProMED-mail 20160111.3926768	モザンビークにおけるマラリア症例増加の報告。地元メディアの報道によると、全国で最もマラリアの被害を受けている北西部のTete provinceでは2015年に213例がマラリアで死亡し、2014年に記録された死亡22例から著しく増加した。マラリアによる死亡者や2015年の症例の増加傾向は、Tete province全域に散在する医療機関へ患者の到着が遅れることが原因であるとの報告。
103	クリプトスポリジ ウム感染	Vet Parasitol. 219(2016)53-56	イタリアにおけるクリプトスポリジウムの報告。大学付属のウマの分娩施設で、2頭の仔ウマからクリプトスポリジウム(C.parvum IIdA23G1亜型)が検出され、医学生6名からもC.parvum亜型が検出され、ウマからヒトへのクリプトスポリジウム感染がはじめて示唆された。これまで、この亜型のウマからの検出は報告されていなかった。